

第166回国際研修に参加して

警察庁 警部 木村 剛

この研修に参加できたことをこの研修に携わったすべての方々に感謝します。

私は、平成29年5月10日から同年6月15日までの間に実施された、国連アジア極東犯罪防止研修所（UNAFEI）第166回国際研修に参加しました。

この研修は、「犯罪組織撲滅のための刑事司法手続と運用」を主要課題として行われ、海外から19か国22人、国内から8人の刑事司法実務家、合計30人が参加しました。

この研修の特筆すべき点は、世界各国から集まった裁判官、検察官、警察官といった刑事司法実務家や普段あまり接点のない、日本の刑事司法に関わる参加者と約6週間もの間、共同生活をしながら研修テーマに関する効果的な対策等について研究し、より良い制度や実務の在り方を学ぶことができるというユニークなところだと思います。

研修期間中には、国内講師及び研修所教官等による日本の刑事司法制度に関する講義等のほか、海外からの客員専門家を招いて行われた効果的な制度等に関する講義、各研修参加者からの個人発表、グループによるテーマに沿った討論等、様々なカリキュラムがあり、日々の業務の中では到底得られない知識や今後の業務において参考とすべき点など数多くのことを学び、吸収することができ、非常に充実した時間を過ごすことができました。

研修当初は、そもそも、各国の司法制度が異なる中で、このような研修が効果的に進められるのだろうかという不安もありましたが、実際は、それぞれの参加者が日本の司法制度を学び、各国の司法制度を尊重したうえで、「犯罪組織を撲滅する」という同じ目標に向かって何ができるのか、今取り組むべきこ

とは何か、課題は何か等について真剣に考えており、活発な意見交換を行うことができました。

今回の参加者は、それぞれの生活習慣、文化、業務、そしてその国の司法手続に違いはあるものの、日本人を含めたすべての方が仕事の面では犯罪組織の撲滅のために熱意を持ち、人間的にも素晴らしい、魅力をもった方々でしたので、私たちはすぐに打ち解けることができ、非常に有意義な時間をともに過ごすことができたのだと感じています。

さらに、参加者全員が同じ寮で寝食を共にできたことがこの研修の大きなメリットであり、これによりお互いの距離を短期間で縮めることができたのだと思います。

講義を終えた後に、海外参加者と各国の文化や習慣などについて語り合い、学ぶことができますし、討論が足りなければ、リラックスした環境で討論の続きを行うことができました。

また、英語力の乏しかった私には、海外参加者から英語を教えてもらうことができたことは英語の習得という点でも貴重な時間でした。

さらに、普段落ち着いて会話をする機会のない他機関の日本人参加者と知り合うことができたことも、私にとって、かけがえのない財産となりました。

それぞれが、これまで心の中では感じていたものの、なかなか面と向かって話せなかったようなことを、腹を割ってじっくりと話せる機会というものはそのような貴重な機会でした。

そして、この共同生活を通じて、参加者全員が相互に理解し尊重しあうことが出来れば、次第に良き友情が生まれ、理想的なチームワークが生まれるということも実感しました。

講義のほかにも、この研修に参加しなければ、到底成しえない多くの活動を

経験することが出来ました。

法務大臣の表敬訪問をはじめ、府中刑務所内の見学、横浜地方裁判所での公判傍聴、大相撲観戦、横浜港クルーズなどに参加し、また広島、神戸、京都への研修旅行では、海上保安庁、税関、地方検察庁の見学のほか、様々な施設を訪問したことによって、海外参加者に限らずすべての参加者が、日本の歴史や文化を学ぶことができたのではないかと思います。

特に、広島の平和記念公園での見学では、海外参加者が熱心に日本の歴史について学ぼうとしていた姿に感動しました。

印象的だったのが、ある海外参加者が、「どんな理由があっても戦争は許せるものではない。必ず母国に戻ったらこの目で見たこと、学んだことを皆に伝える。」と話してくれたことでした。

海外参加者との思い出を語り尽くすことはできませんが、国際ショナルテーブルテニストーナメントやバーベキューパーティー、そして日本の良さを知ってもらいたいとの思いで、休日に日本人参加者が企画した高尾山への登山、鎌倉・江の島ツアーや富士山見学を兼ねた富士急ハイランドへの小旅行、日本の文化について知ってもらいたい一心で頑張った、日本人参加者による少林寺拳法や剣道の演武、舞踊などを通じ、また、海外参加者からはお国自慢のプレゼンテーションをしてもらうことでお互いの絆を深めることができたのではないかと感じています。

ある海外参加者から「日本が大好きだ、必ずまた日本に来る。ありがとう。」と言ってもらえたときは、非常に嬉しく感じました。

このような貴重な時間を過ごすことができたのは、様々な場面で教養、サポートしていただいた UNAFEI 所長をはじめとした研修所教官、スタッフ、JICA 職員、アジア刑政財団職員ほか、すべての方々のおかげです。

世界各国にネットワークができるこのような貴重な機会を与えていただいたことに感謝してもしきれません。

私は、この研修で学んだことを活かし、自分の分野で自分のできることをやるという気持ちを新たにしましたし、他の研修参加者も各国で同じように思っているに違いありません。

海外の研修参加者が、今後それぞれの国で活躍することを日本から願うとともに、私も日本で精一杯努力をしていく所存です。

そして、いつかまた研修参加者と再会できることを望みつつ、皆とのかけがえのない絆が今後も続いていくことを願っていますし、続いていくと信じています。

最後になりますが、仕事と時間が許すならばという制約はありますが、私は「ぜひ数多くの方がこの研修に参加して欲しい。」と切に思います。

この研修に参加すれば、言葉で表すのは難しいですが、言葉にならないほどの素晴らしい貴重な経験が必ずできるということを伝えたいと思います。

本当にありがとうございました。